春の叙勲に柊野区出身の 玉利玲子氏が瑞宝双光章を受賞

玉利玲子さんは、鶴宮中学校を卒業された後、鹿屋「星塚敬愛園」准看護学院、国立鹿児島病院高等付属看護学院に進学され、１９６８年に名古屋に移り住み、藤田保健衛生大学病院で38年間勤務されました。その間、看護部長などを歴任され、看護師の勤務三交代制を二交代制に変えるなど、新しいアイデアを生かし労務管理を進めてこられました。

今回の受賞は、現場を第一に考えた二交代制シフトの取り組みなど、看護の分野でたゆみない努力を続けられた業績が認められたものです。

二交代制シフトは好評で今も続けられています。

現在は、愛知県看護協会会長として、後輩の看護師たちへ提言や教育など看護の仕事のお手伝いをされています。

5月12日、皇居宮殿での拝謁式では席が丁度、天皇陛下の前で緊張されたそうです。

竹産業全体の振興発展への貢献が認められ 鍋田高義氏が黄綬褒章を受賞

鍋田高義さんは、昭和21年、荒木竹材工芸株式会社に入社され、鹿児島県特産のモウソウチク製の花器加工技術を習得され、昭和27年に鍋田竹材店を創設されました。

竹製花器づくり一筋に59年余りの長きにわたり、技能の研鑽に精励され、その卓越した技能をもって多くの優れた作品を生みだすとともに幾多の考案、改善によって、竹産業の発展に大きく貢献されました。

特に長年の経験と研究に基づく原竹の選抜・竹材形質に合った油抜き処理、乾燥法、専用加工具の考案など、その加工技術においても業界における第一人者と言われています。

モウソウチク材の基部の自然の曲がりを「根一重切り」、「舟形」、「鶴首」といったデザインに生かして個性的な花器に仕上げ、また、油抜きと乾燥法は竹の伸縮補正だけではなく割れ防止や防虫防かびまで考慮した方法を用いるとともに、地下茎付きの素材の場合の掘り取り工具から、伐採、粗削り、仕上げに至るまでの加工に使用する工具は全て鍋田さんが考案されたものであり、これらの工具は同業者に広く使用されています。

今回の受賞は、伝統技法を守りながらも積極的に現代生活にマッチしたデザインの新製品開発に取り組み、竹産業全体の振興発展に大きく貢献されたことが認められたものです。

勲章を胸に付け，皇居宮殿にて，夫婦で記念撮影